

秋の彼岸によせて

平成十四年九月 大乘寺 住職 岡 光俊

明けがたの三時四時の空は静寂で星も大変綺麗に見え、宇宙の時間と空間の無限を感じさせてくれます。また人間が忘れてはならない、己の本当の小ささを素直に認めさせてくれます。自然の恵みと神佛の営みのほかには、なにも存在し得ないことに気がつけば、自然のリズムに合わせて行くことが、英知であると思えてきます。

人類は今日こんにちまであらゆる争いを繰り返し、争いからはなにも得られないことを知っているはずなのに、争いは絶えません。残るのは憎しみと悲しみ、このまま欲を肥大化して人間は間違った人間の考えで自らが滅び去るのでしょうか。誤解の上に誤解を塗り重ねる今日、一人一人が気づくべきときがきたように思います。日本が本来持っていた自然のリズム、作物、動物、植物、森林の成長の速度に合わせて、生活を営んできた、それは日本の古来の文化に今も息づいています。

インターネットが発達し、世界のあらゆる情報が無数に瞬時に自分の手元に送られてくる時代であっても、変えることのできないものがあります。それは人の心です。人間行動の根幹は心です。同じ環境に置かれても一人一人行動パターン、考えかたがまったく異なります。人はよい考えかたにはあまり関心が持てません。せいぜい偉い人で一括りで終わります。これは、自分よりよいことをするには、どれほどの高い心、魂たましいを持たなければできないか体験がないためです。しかし、悪い心の現象は、自分のなかに常に潜んでいるもの、また同じような気持ちになったことがあることでよく理解でき、自分ならそこまでしないと、できないとかと細かく表現し取り上げられるのです。

人間にはそのような様々な心が存在すること、人間が感じ取れない無数の大いなる力が存在すること、そのなかで人間は、自然の力に乗せてもらっているだけで、力などないこと、今まで皆が思い違いをしていたのです。神佛の力によって自然界に働きかけて頂いた

分、少しだけ人間に分け与えて頂いていたのです。今地球にとってのガン細胞は人間以外の何者でもないのです。

地球のガン細胞である私たちが今すぐ正常細胞に変わらなければならぬときではないでしょうか。そのためには人類全員が何故自分ガン細胞なのか真剣に考えるべきです。さもなければガン細胞の終末の如く、無限に増殖し、ガン細胞が正常細胞に勝鬪かちどきを挙げたとき、神佛がお作りになった機能バランスを一気に崩し、肉体はあらゆる機能を停止し、勝ったはずの戦いが、自らの崩壊そのものであったと気づいたときはこの世に存続する場すら残っていない。今の人間はこんな簡単な解り易いことも解らなくなるほど、自分の今だけを考えているからではないでしょうか。

そんな私たちが今始めなければならぬこと、十代二十代の若い柔軟な心に佛さまの正しい心をしつかりと植えつけ、人類以外のすべての生命体が営んでいるように、正常な心の正常細胞を自然の許しのなかで溶け込ませていくこと。これから親になる若い夫婦が、人間にはなんの力もないこと、今まで経験したことのない正しい心が無数に存在していること、その心を学ぶ方法が存在していること、その方法を身につけようとすることの困難さは、人は欲心よくしんのなかにあつて正しい心を感じ取れないこと、その一つ一つの段階を精進努力しなければ、人間は、正しい心を身につけることができないことに気づくべきでしょう。

秋の彼岸、一人一人真剣にお経を読み、己おのれの無力を感じる事ができたかたは幸いです。思い違いに気がつけたかたは、改善の方向に舵を切り替えることができますからです。そのことが先祖さまの最も望まれるところですし、ご先祖さまが皆さまに大いなる力を現わすことができる瞬間となるからです。

愚かな者ほど己おのれの力を過信する。